臨床心理基礎実習 II

必修　　1単位

村上　香奈・稲垣　綾子・大塚　斉

1. 授業の概要（ねらい）

心理臨床家として心理療法や対人援助を行う上で、単に臨床心理学関連の理論や知識を得るのみではなく、体験学習を通してその理念や具体的技法を総合的に体得する必要がある。実際の臨床心理学的な対人援助は、基本的理論や知識を背景としながらも、個別性や関係性を重視しながら多様に展開していく。

本大学院では、心理臨床家を育てるために、「臨床心理基礎実習」と「臨床心理実習」を重要な必修カリキュラムとして位置付けている。この「臨床心理基礎実習」は修士1年全員を対象とするものである。この実習を通じて、心理療法や対人援助の基本的考え方や技法の習得を目指す。これらの習得によって、実習生（心理臨床家を目指す者）として実際にクライエントを担当し、臨床心理学的対応が可能となるレベルを目指す。

なお、心理臨床センターにおける実習は、教員による評価をもって一定の基準を満たした者が行うことができる。

2. 授業の到達目標

(1)主体的な態度で授業に参加し、ディスカッションすることができる。
(2)試行カウンセリング実習に際しては、事前準備をしっかりと行い、心理臨床家を目指す者として、クライエント役に対して適切な態度・技能をもって臨むことができる。
(3)試行カウンセリング実習の振り返りに際しては、事前準備をしっかりと行い、指導内容を受けとめ、ケースや自分への理解を深めることができる。
(4)センター実習（運営実習や見学陪席等）において、適切な振る舞いができる。
(5)実際のクライエントに対応できる基本的な知識・技能・態度を修得する。

3. 成績評価の方法および基準

参加態度30%、試行カウンセリング実習（事前準備、実施、振り返り、課題）40%、センター実習30%

4. 教科書・参考文献

教科書

土居健郎著　『新訂　方法としての面接』　医学書院
鑪幹八郎著　『試行カウンセリング』　誠信書房
熊倉伸宏著　『面接法』　新興医学出版社
平木典子著　『カウンセリングとは何か』　朝日選書

5. 準備学修の内容

臨床心理基礎実習Ⅱ開始前に、課題図書を復習しておくこと。
実習形式の授業であるが、その準備・事後学修として種々の課題が呈示される。期限を守ることは勿論、関連文献に目を通すなどして、十分に取り組むこと。

6. その他履修上の注意事項

心理臨床家になるためには、単に授業に出席するだけではまったく不十分である。カリキュラムはあくまで最低限の考え方や体験を提供するものであり、それらをどのように深めていくか個人的に修練が必要となる。

心理臨床場面は常に未知の体験の連続である。知らないことへの探究心や研究の姿勢を持つことが重要となる。臨床心理学の研究のマインドを保ちながら、その基本となる姿勢をこの実習で身につけてほしい。

欠席しないようにコンディションを整える必要がある。

ゲストスピーカーを招くことがある。

他の実習やゲストスピーカーとの調整により授業内容に変更が生じる場合がある。

この科目は臨床心理学専攻に特化した科目である。

7. 授業内容

【第1回】　ガイダンス
・試行カウンセリング実習ガイダンス
・見学陪席、ケースガイダンス
【第2回】　・センター実習（運営実習）の振り返り
・試行カウンセリング実習およびセンター実習（見学陪席）評価項目の説明
【第3回】　・倫理やカウンセリングの基本的な態度の理解
【第4回】　・試行カウンセリング実習・GSV1
【第5回】　・試行カウンセリング実習・GSV2
【第6回】　・試行カウンセリング実習・GSV3
【第7回】　・試行カウンセリング実習・GSV4
【第8回】　・試行カウンセリング実習・GSV5
【第9回】　・試行カウンセリング実習・GSV6
・ケースレポートの書き方や自己評価について説明
【第10回】　・プレイセラピーの基礎と実践
・プレイセラピー実習
【第11回】　・箱庭療法の基礎と実践
・箱庭療法実習
【第12回】　・家族療法の基礎と実践
・ジェノグラムワーク
【第13回】　・児童虐待事例における心理職のしごと―その役割と多職種連携（ゲストスピーカー）
【第14回】　・ワークディスカッション
【第15回】　まとめ